

特定非営利活動法人
オールしずおかベストコミュニティ

～ 平成 28 年度活動のご紹介 ～

- I メディアで紹介されたオールしずおかベストコミュニティ
- II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ



目次



I メディアで紹介されたオールしずおかベストコミュニティ

| | |
|--|----|
| 浜名湖ロイヤルホテル販売会／県立浜松西高校パン販売会 | 3 |
| 共生会が「とも沼津店」運営 | 4 |
| パルシェ販売会(春)／パルシェ販売会(夏) | 5 |
| 静岡県授産製品コンクールの審査員募集／障害者の工賃向上研修会 | 6 |
| 農福連携支援事業 | 7 |
| 静岡県授産製品コンクール／グランシップ販売会 | 8 |
| 農福連携支援事業／「とも沼津店」クリスマスフェア | 9 |
| パルシェ販売会(冬) | 10 |
| 中日本高速道路高架下除草作業／「とも沼津店」大感謝フェア／農福連携しずおか 野外マルシェ 2016 | 11 |
| しずおか授産製品ブランド化推進事業 | 12 |
| 「静岡のチカラ」静岡県遊技業協同組合の取組 | 13 |

記事・画像等は新聞社・テレビ局の許諾を得て、日付順に転載しています。

II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ

| | |
|---|----|
| 静岡県障害者授産製品コンクール／静岡県障害者芸術祭 | 14 |
| 新春講演会／部会活動 研修情報部会による自主研修 | 15 |
| 授産製品販売イベント／就労移行推進事業 | 16 |
| 農福連携支援事業／しずおか授産製品ブランド化推進事業 | 17 |
| 厚生労働省 障害者の技術向上支援に係るモデル事業／静岡市 障害者就労支援 スタッフスキルアップセミナー事業／浜松市 授産製品等アドバイス事業 | 18 |

障害者と生徒つなぐパン

浜松市内の福祉事業所が8日、障害者が作ったパンの販売を中区の県立浜松西高で始めた。NPO法人「ミントの家」(東区)と社会福祉法人順愛会「きょうり」(西区)が週2日ずつ昼休みに出店する。



購買でパンを選ぶ生徒たち
|| 浜松市中区の県立浜松西高

福祉事業所が 浜松西高で販売

手作り、格安14種類

初日は「ミントの家」の職員と利用者が同校を訪れ、チョコバナナパンやシフォンケーキなど、14種類のパン約200個を販売した。価格は50〜150円。3年の鈴木日菜さん(17)は「たくさん種類があって味が気になる。いろいろ試してみたい」と話した。

昨年度末、同校が購買業者の撤退をきっかけに、福祉事業所と企業などをつなぐ活動に取り組みNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」を通じて事業所へパンの販売を依頼した。同法人によると、福祉事業所が高校で製品を販売するのは県内初という。出店は木、金曜が

(平成28年4月10日・静岡新聞)

「ミントの家、火、水曜」関心が高まれば」と期がきょうり。後藤昌英教待した。頭は「生徒の福祉への

障害者手作り遠州綿紬製品



障害者が手作りした遠州綿紬の製品=浜松市西区で

西区のホテル 雑貨や衣料品販売

浜名湖ロイヤルホテル(浜松市西区)が、市内の障害者らの手作りによる「遠州綿紬」の雑貨や衣料品の販売を始めた。小川大三朗総支配人は「障害者福祉に協力しながら、地元の特産品を宿泊客にPRしていきたい」と話す。(吉川翔大)

江戸時代から浜松に伝わる遠州綿紬を知ってもらおうとホテルが企画。障害者の就労支援をしているNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」(静岡市)が、浜松市ばな授産所(同)、遠内の障害者らが通う作州みみの里(中区)が業所の製品を紹介し製品を納入する。障害

福祉に協力、特産品PR

者らが、綿紬の味わい深いしま模様を生かし、手やミンで丁寧に縫い付けて仕上げた。ホテルロビーにある売店の入り口にコーナーを設け、綿紬を使ったハンカチやかばん、キーホルダーなど二十種類を扱う。同法人西部地区センター(中区)の河島美津夫センター長は「さまざまな模様の製品があり、若い人からお年寄りまで気に入ってもらえるはず」と話していた。

(平成28年4月3日・中日新聞)

共生会が「とも」沼津店運営

3回目の受託で記念式典

NPO法人オールしずおかベストコミュニティは、県東部の障害者施設で製造された自主製品などを販売する「とも」沼津店」を沼津駅南口前のパレット一階に開いているが、今年度から社会福祉法人共生会に店舗運営を委託。十一日のオー

ンに合わせて記念式典が同店前のギャラリーぶらさで開かれた。「とも」は県の委託を受ける施設で、「とも」沼津店は、県東部地区の福祉施設による授産製品を企業や地域住民にアピールして販売促進を行うアンテナショップであるとともに、企業に社内での使用や販促品としての活用を呼び掛ける窓口、障害者の働く場所、職業訓練、生きがいの場として運営されている。

共生会では平成八年の「とも」沼津店オープン当時から運営を受託。途中、運営団体が交代しながらも同店は約二十年間継続しており、共生会が運営を受託するのは今回で三回目になる。

来賓祝辞では、県障害者政策課の増田吉則課長が、障害者作業所での工賃月三万円以上を目指す工賃向上計画や授産製品のブランド化、障害者の農業従事者促進する農福連携など県の取り組みを紹介。「これまでのノウハウを生かしたりリニューアルオープンで、障害への理解者と利用者が増えれば」と期待した。

市障害福祉課の岩瀬宗一課長は「障害者手帳を持つ市民は二十七年末で約九千八百人と、市民の二十人に一人。これは障害サービス充実と障害者が社会参加している表れではないか。皆さんの生活向上が社会理解の促進や、心のバリアフリーにもつながる」と話した。

「とも」沼津店で働く利用者が「働く自信をつけた」と決意を述べ、別の利用者がメニューの「二百円カレー」について、「大手食品メーカーの協力により仕入れ値を

抑えて安全・安価のカレーが実現できた」ことなどを話した。共生会管理者の太田秀夫総合施設長は、共生会の概要を説明。障害がある人が当たり前前に生活する社会を目指して利用者十人でスタートして三十二年がたち、現在、利用者約百四十人、職員六十人で、「とも」沼津店が十一番目の事業所になること。長泉町から富士市まで小さい事業所を増やし、七店舗を運営していることなどを話した。

今回のリニューアルオープンに際して、「今回は私達法人の利用者だけでなく、利用者にサービス業を経験させたい」と述べて。共生会が「とも」沼津店を運営していることなどを話した。

「とも」沼津店では、授産製品を企業や地域住民にアピールして販売促進を行うアンテナショップであるとともに、企業に社内での使用や販促品としての活用を呼び掛ける窓口、障害者の働く場所、職業訓練、生きがいの場として運営されている。



記念式典の中で決意を述べる利用者代表＝沼津商連会館ビル1階で

「とも」沼津店では、授産製品を企業や地域住民にアピールして販売促進を行うアンテナショップであるとともに、企業に社内での使用や販促品としての活用を呼び掛ける窓口、障害者の働く場所、職業訓練、生きがいの場として運営されている。

共生会では平成八年の「とも」沼津店オープン当時から運営を受託。途中、運営団体が交代しながらも同店は約二十年間継続しており、共生会が運営を受託するのは今回で三回目になる。

来賓祝辞では、県障害者政策課の増田吉則課長が、障害者作業所での工賃月三万円以上を目指す工賃向上計画や授産製品のブランド化、障害者の農業従事者促進する農福連携など県の取り組みを紹介。「これまでのノウハウを生かしたりリニューアルオープンで、障害への理解者と利用者が増えれば」と期待した。

市障害福祉課の岩瀬宗一課長は「障害者手帳を持つ市民は二十七年末で約九千八百人と、市民の二十人に一人。これは障害サービス充実と障害者が社会参加している表れではないか。皆さんの生活向上が社会理解の促進や、心のバリアフリーにもつながる」と話した。

「とも」沼津店で働く利用者が「働く自信をつけた」と決意を述べ、別の利用者がメニューの「二百円カレー」について、「大手食品メーカーの協力により仕入れ値を

抑えて安全・安価のカレーが実現できた」ことなどを話した。共生会管理者の太田秀夫総合施設長は、共生会の概要を説明。障害がある人が当たり前前に生活する社会を目指して利用者十人でスタートして三十二年がたち、現在、利用者約百四十人、職員六十人で、「とも」沼津店が十一番目の事業所になること。長泉町から富士市まで小さい事業所を増やし、七店舗を運営していることなどを話した。

今回のリニューアルオープンに際して、「今回は私達法人の利用者だけでなく、利用者にサービス業を経験させたい」と述べて。共生会が「とも」沼津店を運営していることなどを話した。



式典の出席者らにカレーなどを振る舞った＝「とも」沼津店で

多彩な授産製品
あすまで販売

JR静岡駅ビル

静岡市内の九つの福

社事業所で作った授産
製品の販売イベント
12日、JR静岡駅ビル



手作りのクッキーや雑貨が並ぶ会場＝静岡市葵区の
JR静岡駅ビル・パルシェ食彩館

・パルシェ食彩館で始
まった。14日まで。
ランチョンマットや
ヘアゴム、手提げバッ
グなど雑貨のほか、ク
ッキーや焼き肉用の秘
伝のタレなど食品も並
ぶ。製品は全て手作り。
利用者がデザインした
タオルハンカチといっ
た個性的な商品もあ
る。障害者雇用支援を
行う「NPO法人オー
ルしずおかベストコミ
ュニティ」が企画した。
担当者は「一つとして
同じ物はない。心のこ
もった製品をぜひ手に
取ってみてほしい」と
話している。

(平成 28 年 4 月 13 日・静岡新聞)

葵区 11福祉事業所の商品販売

福祉事業所商品の販売イベント「夏の福祉フ
ェア」(NPO法人オールしずおかベストコミ
ュニティ主催)が20日、静岡市葵区のJR静岡駅



ビル・パルシェで始まった＝写真＝。22日まで。

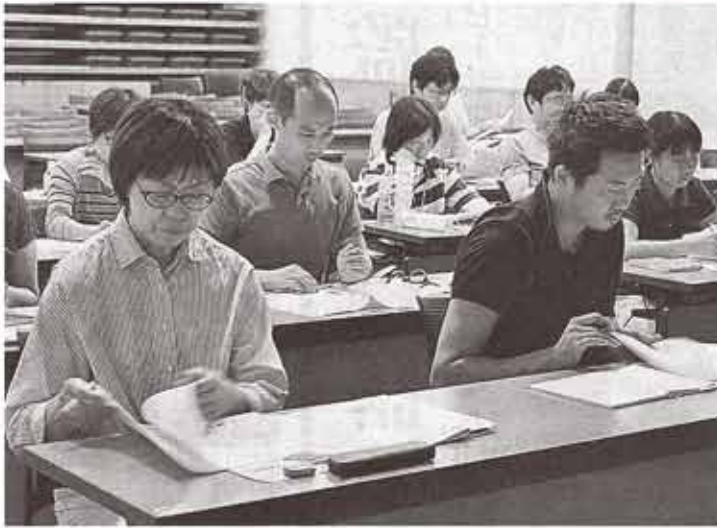
同市内の11福祉事業所が参加し、藍染めのト
ートバッグや機織り機で織った小銭入れ、絵は
がきなど手作りの商品200点以上が並んだ。

同法人の正守利彦支援課中部地区センター長
(56)は「一品一品心を込めて作られている。良
さを感じてほしい」と話した。

(平成 28 年 7 月 21 日・静岡新聞)

障害者の工賃向上へ

葵区で研修開始



障害者の工賃アップを目指し、経営戦略の基礎を学ぶ施設関係者＝静岡市葵区

職員、経営技術磨く

障害者就労施設で働く人の工賃アップを目指し、施設職員が経営スキルを習得する研修会が15日、静岡市葵区で始まった。中小企業診断士や介護福祉経営士などの資格を有する静岡信用金庫職員を講師に、2017年1月まで全6回開く。

初回のテーマは「事は「事業所が収益率を業所運営」。信金職員 上げて体力をつけるこ

とが、働く人の工賃向上につながる」とし、

経営戦略の重要性を強調した。強み、弱みといった経営環境を把握する「SWOT分析」を取り入れ、商品開発や市場拡大の戦略を練るよう助言した。

県内の障害者就労施設の15年度実績によると、一般企業に就労が困難な人が訓練を受け、就労継続支援B型事業所の平均月額工賃は1万4818円で、県が目標とする3万円の半分に満たない。施設と利用者が雇用契約を結ぶA型事業所の平均

(平成 28 年 9 月 16 日・静岡新聞)

月額工賃は6万7415円。研修会は市主催で、NPO法人オールしずおかベストコミュニティが運営する。月1回のペースで開催し、第2回以降は「原価計算と適正価格」「販売促進と商品デザイン」など、イが題材にする。パンや木工品などを製造販売する22施設の延べ157人が参加する。(政治部・鈴木文之)

授産製品の審査員募る

静岡のNPO

NPO法人オールしずおかベストコミュニティは23日まで、「県授産製品コンクール」の市民審査員を募集している。授産製品の品質向上とPRを目的に毎年開催していて、専門審査員とともに市民審査員が評価する。応募資格は県内在住、在勤、在学18歳以上。障害福祉サービス事業所の職員は不可。募集人員は5人。審査会は10月5日午前9時半から静岡市葵区の障害者働く幸せ創造センターで開く。

問い合わせはオールしずおかベストコミュニティへ電054(251)3515へ。

(平成 28 年 9 月 13 日・静岡新聞)

農福連携

県は障害福祉事業所の農業参入を後押しする「農福連携」支援事業を本格化させている。専門家の派遣や視察研修といった取り組みを通じ、障害者の工賃向上と農業分野への一般就労につなげたい考えだ。
(政治部・山下奈津美)

障害者就労へ 研修や専門家派遣

県が後押し

事業を受託したの例を挙げて説明した。10月下旬と11月には、水耕栽培のレタスを手掛けるNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」(静岡市葵区)。施設と利用者が雇用契約を結ぶA型と、一般企業に就労が困難な人が訓練を受けるB型の各就労継続支援事業所計20施設を対象に、すでに2回の研修会を開催。農福連携に取り組む福祉事業所や企業の担当者が農業経営の基本、障害者の働き方、マーケティングの手法などの実

例を挙げて説明した。10月下旬と11月には、水耕栽培のレタスを手掛けるNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」(静岡市葵区)。施設と利用者が雇用契約を結ぶA型と、一般企業に就労が困難な人が訓練を受けるB型の各就労継続支援事業所計20施設を対象に、すでに2回の研修会を開催。農福連携に取り組む福祉事業所や企業の担当者が農業経営の基本、障害者の働き方、マーケティングの手法などの実



障害者と共に栽培を始めたオリーブ＝長泉町内

農作物を販売するマルシェ開催の計画もある。

NPO法人「日本セ

いる。

国の障害福祉事業所を対象に行ったアンケート(有効回答832事業所)では「現在農業に取り組んでいる」地域農産物の加工販売を行っている」との回答が計41・4%。何らかの形で農業に携わる事業所は増えつつある。1施設当たりの農作物年間売上高は100万円未満が46・4%と半数近い。ただ1千万円以上も10・2%あり、本格的な収益事業につながる可能性を秘めている」と話す。

業分野 社参入

「農福連携」の取り組みは農業の担い手不足解消や耕作放棄地の活用など、社会問題解決の糸口としても期待されている。

三島市の就労継続支援A型事業所「ユースエイド」(高橋達也代表)は長泉町の耕作放棄地

担い手不足や 放棄地解決も

を農地に整備し、5月からオリーブ栽培を始め、表の指導を受け、収穫を評価する。高橋代表は「目標は『長泉ブランド』のオリーブ。農業は分担して作業すれば難しくない。営利だ

「農福連携」の取り組みは農業の担い手不足解消や耕作放棄地の活用など、社会問題解決の糸口としても期待されている。

**授産製品70点の
機能や価格評価
葵区でコンクール**

県内の障害者福祉事業所が自主製品の出来栄を競う県授産製品コンクールが五日、静岡市葵区の「障害者働く幸せ創出センター」であった。百貨店のバイヤーや製菓会社、デザイナーらの専門審査員十人が完成度や機能



福祉事業所が作ったチョコレートなどの新作が並ぶ会場＝静岡市葵区で

性、価格を採点した。一般の審査員五人も消費者目線で評価した。食品、縫製品、陶芸木製品、雑貨品、作品の各部門に、県内の四十四事業所から計七十点の新作の出品があった。会場には竹炭のクッキー、チーズケーキ、手織りのハンドバッグ、せっけん、木製のサイクルラックなど、さまざまな製品が並んだ。魅力ある製品を販売することで障害者の工賃の上昇につなげよう

と、NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（葵区）が毎年開いている。出品された製品は福祉の専門店や法人の運営するネットショップで購入できる。（垣見窓佳）
 ◇各部門の県知事賞
 食品 いもねこのあしあとクッキー、くろねこのあしあとクッキー（工房 いもねこ・浜松市東区）
 △縫製品 遠江帯布（遠江学園・浜松市北区）
 △陶芸木製品 UK-30 プラノウクレレ（草笛共同作業所・菊川市）
 △雑貨品 スイミングフラッグ（竹の子・富士市）
 △作品 富士山レレ（草笛共同作業所・菊川市）

（平成 28 年 10 月 7 日・中日新聞）



多くの来場者でにぎわう福祉事業所の販売会
＝静岡市駿河区

**福祉事業所製品
1時間で完売も
駿河区で販売会**
 オールしずおかベストコミュニティは29日、静岡市駿河区のグランシップで県内各地の福祉事業所の製品販売会を開いた。

20事業所が出店し、利用者が作ったハンバガーやクッキー、箸置き、マフラーなどを販売した。多くの来場者でにぎわい、約1時間で完売する店もあった。担当者は「専門家から製作の指導を受けて

いるため、福祉事業所の製品の質はとても高い。ぜひ手に取って確かめてほしい」と話した。

（平成 28 年 11 月 30 日・静岡新聞）

市 御殿場 ステップワンのゆめ農 福祉施設職員らが視察

県東部の福祉施設職員らがこのほど、御殿場市かまどの社会福祉法人ステップ・ワン（根上豊子



水耕レタス栽培を視察する参加者ら

理事長）を訪れ、同事業所が取り組む水耕レタス栽培を視察した。この事業は障害者の工

賃向上を目指し、農業分野への就労支援を図る「農福連携事業」の一環。静岡市のNPO法人オールしずおかベストコミュニティが県から委託を受け行った。ステップ・ワンでは平成23年度に国、県の補助金を受け、水耕レタス栽培のほ場「ゆめ農」を整備。群馬県の種苗会社、農協、県と連携して24年からリーフレタス種の「リボン」と「クイーン」、サニーレタスを栽培している。現在18人の利用者とパートを含む職員6人の体制で、1日当たり5

00〜600個、年間13万個のレタスを農協や大手スーパーなどに出荷している。レタス栽培開始により、利用者の平均月額工賃はそれまでの1万4000円から2万円に向上した。

参加者らは水耕栽培を行っているビニールハウスを視察し、担当職員から出荷までの作業工程や施設利用者の仕事の内容などを聞いた。根上理事長は水耕ハウス栽培により天候の影響を受けにくく、高冷地の御殿場でも安定してレタスを収穫できることなどを紹介し、「農業にはたくさんの方がおり、どこかに障害者がかかわることができ

た。一方で、レタス水耕栽培には施設整備のために莫大な初期投資費用が必要なこと、栽培当初は販路がなく、手売りで1個1個レタスを販売していたことなど苦労を話し、国の補助金を活用して施設を整備できたことや、法人役員の方添えて大手スーパーに出荷できるようになったことなど生産・流通体制が軌道に乗るまでの経緯を説明した。県内でも先進的な同法人の農業の取り組みに参加者らは熱心にメモを取ったり、質問をしていた。

この日の視察では「金太郎トマト」を生産する小山町棚頭のエコファームふじの郷も訪れ、参加者らはトマト栽培の見学や、トマトを使った加工食品なども学んだ。

(平成28年11月6日・岳麓新聞)

クリスマスフェア エアキようも

バレット1階「とも」沼津店で授産品など販売する「とも」沼津店を沼津駅南口前の沼津商連会館ビル1階に

地域住民にアピールする販売促進による授産品の普及、障害者の自立と工賃の向上を目指している。

「とも」沼津店は、今年四月から社会福祉法人共生会に店舗運営を委託。授産品を販売し、メインメニューの「二百円カレー」や「ねぎトロ丼」、挽き立

てのコーヒーなどを扱う喫茶コーナーを開いている。

共生会管理者の太田秀夫総合施設長は「とも」沼津店の売り上げは昨年度の四割増し。喫茶店の運営に慣れた利用者による接客態度などが評価された結果だと思ふ。ここで経験を積んで就職につながれ



食料品や縫製品、木工品など多彩な授産製品が並ぶクリスマスフェア＝沼津商連会館ビル1階で

ば」と話している。同フェアでは、食品や縫製品、期間限定商品などの授産品や自主製品を販売。障害者施設十三施設によるパ

や焼き菓子、縫製品、アクセサリーなどが並ぶ。

また、あしたか太陽の丘の就労継続支援B型施設「クリエイト太

陽」の木工班がヒノキの間伐材を使って製作した「サイクルラック」を展示するとともに、県授産製品コンクール陶芸・木工品部門で県社会福祉協議会会長賞を受賞したことを報告している。

(平成28年12月21日・沼津朝日新聞)

葵区でNPOが販売イベント



県内の福祉事業所で、日、静岡市葵区の静岡
作られた菓子や日用品 駅ビルパルシェ食彩館
などの授産製品を販売 でおかベストコミュニ
するイベントが十三日 十五日ま ティ(静岡市葵区)
が、福祉事業所や商品

授産製品を知って

菓子やXマス用品並ぶ

を多くの人に知ってもらおうと開いた。市内の九つの事業所が出店し、クッキーやパウンドケーキ、手織りの布のペンケースやお盆などの木工製品を販売している。クリスマスカラーをイメージした色のマフラーやリースもある。

ベストコミュニティの担当者は「心を込めて作った製品を買ってもらえることは障害のある人にとっても大きな喜びになっている」と話した。パルシェでは年に三回、授産製品の販売会を開いている。

(垣見窓佳)

クッキーやお正月リースなどが並ぶ会場。静岡市葵区の静岡駅ビルパルシェ食彩館で

(平成 28 年 12 月 14 日・中日新聞)

発注を受けて美化活動

浜松 新東名高架下で障害者

中日本高速道路東京支社浜松保全・サービ
センター（浜北区）と、浜松市内の障害者



新東名の高架下で作業をする参加者（浜松市浜北区）

環境美化活動に取り組んだ。

高架下の草刈り作業は同社の業務の一つ。地域社会に貢献する取り組みとして、障害のある人の自立促進を進めるNPO法人オールしずおかベストコミュニティ（静岡市葵区）を通じて、浜松市内の四つの施設に発注した。

この日は障害者約三十人が参加。熊手などを手に、枯れ草を集めて運搬用のトラックに載せたり、ホイ捨てされた空き缶を拾ったりした。作業は十七日まで続く計画。

同NPOの西部地区センターの河島美津夫センター長は「障害者の収入アップのために、一般の企業も発注してくれるとありがたい」と話した。

（宮沢輝明）

（平成 29 年 2 月 14 日・中日新聞）

情報ナビ

【静岡市葵区】■農福連携しずおか野外マルシェ2016 12日10時半～15時、青葉シンボルロード 葵スクエア▽御殿場の新鮮野菜や三ケ日のみかん加工品など農産物や加工品を販売▽問い合わせはNPO法人オールしずおかベストコミュニティ<電054(251)3515>

（平成 29 年 3 月 10 日・静岡新聞）

とも沼津店が大感謝フェア

きょう、あす先着50人焼き菓子進呈

沼津駅南口前の沼津商連会館ビル一階、とも沼津店は「大感謝フェア」を、きょう八

日と、あす九日に開催。両日とも先着五十人にプチ焼き菓子をプレゼントする。

同店は、NPO法人オールしずおかベストコミュニティの委託を受けて社会福祉法人共生会が運営。県東部地

区の障害者施設で製造された自主製品などを販売するとともに、二百円カレーなどを提供している。

営業時間は午前十時から午後五時（九日は四時まで）。

（平成 29 年 3 月 8 日・沼津朝日新聞）

授産品新ブランド

県、マークでPR 5品認定、先行販売



しずおか授産品のブランドマーク

県は、福祉事業所などで作られた商品をPRするため、「ボケーシヨナルエイド シズオカ(授産しずおか)」をキーワードに新ブランドをつくった。五商品を認定し、静岡市葵区の静岡伊勢丹と授産品販売店「とも静岡店」(同区)で先行販売している。

商品は中から、五商品を関連企業の協力で選定した。

五商品は春風会プラム(伊豆市)の「わさび染めタオル」、けるん(三島市)の「さつまいもジャム」、復泉会くるみの「くるみエプロン」(浜松市中区)の「くるみエプロン」、こころさがら作業所(牧之原市)の「マキティサブレ」、

愛誠会アトリエ・ポルト(静岡市葵区)の「米粉シフォン」。

認定製品に付けられるブランドマークは静岡市在住のイラストレーター海野雅奈さんが手掛けた。

さまざまな色の富士山で星をかたどり、人それぞれが持つ個性から生まれる授産品が輝いてほしいという



春風会プラムの「わさび染めタオル」



愛誠会アトリエ・ポルトの米粉シフォン



復泉会くるみの「くるみエプロン」



こころさがら作業所の「マキティサブレ」



けるんの「さつまいもジャム」

願いが込められている。

県は今後も審査会を開き認定商品を増やしていく。県障害者政策課の担当者は「伊勢丹など多くの人の目に触れる場所で販売することは障害者の励みにもなる。授産品の品質やデザインが良いことを

多くの人に知ってほしい」と話した。

静岡伊勢丹の販売期間は四月四日まで。(垣見窓佳)

静岡朝日テレビ

番組名：「静岡のチカラ」

放送日：平成 28 年 6 月 12 日（日）13：55～14：00

「社会貢献の輪・静岡県遊技業協同組合」

放送エリア：静岡県



インタビューを受けるオールしずおかベストコミュニティ職員



静岡県遊技業協同組合が社会貢献活動の一環として福祉事業所製品を一括購入し端玉景品として活用した事例に関し、コーディネートしたオールしずおかベストコミュニティの活動が番組内で紹介されました。



店舗にて景品として置かれる県内の福祉事業所製品



静岡県遊技業協同組合様に、県内の障がい福祉事業所製品を購入し、組合に加盟する 307 店舗で景品として提供していただいております。16 箇所の事業所から、メモ帳・雑巾・トイレトペーパー・割りばしなど 26 種類、約 6 万 8 千個、約 600 万円分を購入していただき、1 店舗に 220 個ずつ配布されました。この活動は、障がい福祉事業所製品の販路拡大や障がいのある人の自立支援を目的に、2000 年から毎年行われており、これまでに総額約 1 億 6 千万円を購入していただいております。

■ 平成 28 年度 静岡県障害者授産製品コンクール



授産製品の品質向上と一般の方々への周知を目的として、毎年開催しているコンクールです。専門家や消費者により出展された授産製品を審査します。障がいのある人のものづくりを応援します。出展福祉事業所数 44、出品点数 70 点。(平成 28 年 10 月 5 日・障害者働く幸せ創出センター)

■ 平成 28 年度 静岡県障害者芸術祭



「夢いっぱいアートフェスティバル 2016 静岡県障害者芸術祭」において、授産製品コンクールの表彰式と受賞製品の展示を行い、駅を利用する人々に授産製品を PR。ステージ裏では、ミニ作品展、フェイスペイント写真展。午後のステージでは、バルーンパフォーマーや県内の障がいのある仲間たちの団体 8 グループがパフォーマンスを披露しました。(平成 28 年 11 月 12 日・静岡駅北口 地下広場)



◆静岡県授産製品コンクール受賞製品展示
12月27日(火)から平成29年1月3日(火)
会場：伊勢丹静岡店 8階 小催事場

■ 新春講演会



「世の中に必要でない人は絶対にいない！
～障害者は会社になくってはならない戦力～」
有限会社 真京精機 代表取締役社長 武田浩之氏
(平成 29 年 1 月 24 日・グランシップ)



平成 28 年
「新・ダイバーシティ経営企業 100 選」受賞
「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞・審査委員会特別賞受賞
平成 29 年
「第 26 回栃木県イメージアップ貢献賞・経済産業部門」受賞

■ 部会活動 研修情報部会による自主研修



企業に学ぼう I (バスツアー・たこ満様)



企業に学ぼう II (ストレス・マネジメント研修)
講師：静清信用金庫 本店人事部 江崎長一氏



個別支援計画書の作成研修
講師：NPO 法人障害者ケアマネジメント従事者ネットワーク 理事 増井潤氏



助成金研修
講師：株式会社エンパワーメント・ジャパン 代表取締役 中山卓氏

オールしずおかの会員で作る部会では定期的な意見交換を行ったり、自主研修を開催するなどして研鑽を高めます。

■ 授産製品販売イベント



ふじのくに エシカルウィーク（松坂屋静岡店・6月）



ものづくりフェスタ 2016（ツインメッセ静岡・9月）



FIA 世界耐久選手権（WEC）会場（富士スピードウェイ・10月）



第31回 静岡矯正展（静岡刑務所・10月）

大型商業施設やイベント会場での授産製品販売を企画・サポートし、障がいのある人の工賃向上を目指します。

■ 就労移行推進事業



第1回研修会「障害特性の理解・支援のあり方」
第1部「発達障害」
講師：東遠学園 東遠地区生活支援センター 発達障害支援コーディネーター 市村孔元氏



第2部「精神障害」
講師：障害者就業・生活支援センターだんだん センター長 加藤陽一氏

企業や学校でも、障がい者雇用や福祉の仕事についての研修会を、専門の講師を招き開催します。障がいのある人や福祉事業所の職員に役立つ実践的なセミナーを開催します。

■ 農福連携支援事業



視察研修（障害者就労継続支援A型事業所「はぐくみ」・水耕レタス栽培）



視察研修（うなぎいも協同組合「うなぎいも王国&カフェ」）



農福連携しずおか野外マルシェ 2016



農福連携しずおか野外マルシェ 2016

障がいのある人の農業分野での職域を広げることで、工賃向上と農業の担い手不足の解消を図ります。
農福連携しずおか野外マルシェ 2016（平成 29 年 3 月 12 日・葵スクエア 静岡市葵区呉服町）

■ しずおか授産製品ブランド化推進事業



静岡伊勢丹 1階シーズン雑貨コーナー（平成 29 年 3 月）



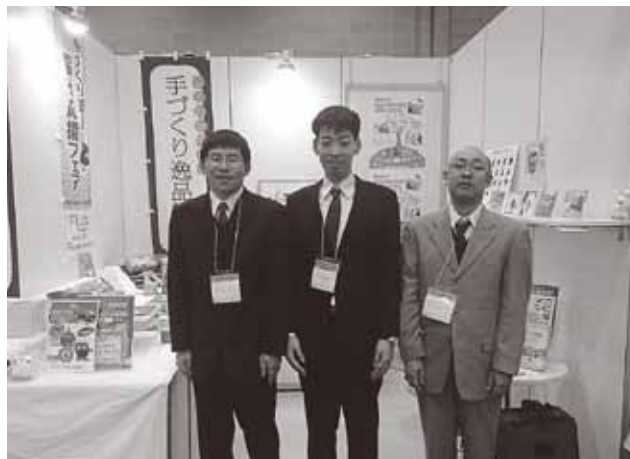
静岡伊勢丹 地下1階ふるさと村コーナー（平成 29 年 3 月）

コンサルティングや販売の専門家からのアドバイスをもとに授産製品の改良、高付加価値化、販路拡大・改善の支援を行います。県おすすめの一品として販売や、一般製品対象のコンクール応募を目指します。

■ 厚生労働省 障害者の技術向上支援に係るモデル事業



目指せパティシエ 講師：鈴木学園 中島 教務部長



第21回グルメ&ダイニングショー春2017 地域ブランドエリア (東京ビッグサイト)

障害のある人が、各分野で活躍する一流の専門家から技術指導を受けることにより、技術の向上や工賃の向上、一般就労移行等を図ることを目指します。

■ 静岡市 障害者就労支援スタッフスキルアップセミナー事業



ステップアッププランセミナー (全6回) 講師：静岡信用金庫
第1回「これからの福祉事業所運営を考える」



経営相談部 大内保彦氏
第2回「商業に関する一般知識を知る」

■ 浜松市 授産製品等アドバイス事業



浜松市の障害福祉事業所への工賃向上支援事業「まるさら出世プロジェクト」
「事業所経営について」
講師：地域包括会計事務所・松本会計事務所 松本有史氏



個別研修 草刈作業の技術的アドバイス等
講師：有限会社 船越造園

福祉のお店・とも & テルベ

◆とも静岡店

(静岡市葵区駿府町 1-70 シズウエル 1 階)



◆とも沼津店

(沼津市大手町 1-1-3 沼津商連会館 1 階)



◆テルベ

(静岡市駿河区曲金 3-1-5 イトーヨーカドー 1 階)



これらの店舗で静岡県内各地の授産製品を販売。障がいのある人の工賃向上を目指すとともに授産製品のPRを行います。

障害者働く幸せ創出センター

(静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」 4 階)



障がいのある人の雇用や就労に関するご相談、会議室の提供や、図書コーナー、授産製品の展示等のPRなど様々な活動を行っています。どなた様もお気軽にお越しください。

こんなご相談は、オールしずおかへ！

- ◎ ノベルティグッズに、障がいのある人の作った雑貨を使い社会貢献をしたい
- ◎ 福祉事業所に仕事を発注したい
- ◎ 障がい者雇用に興味があるが、どんな制度を使えるか知りたい
- ◎ 障がいがあり働きたいが、どこに相談してよいかわからない
- ◎ 授産製品の販路拡大のアイデアがほしい etc.

お気軽に
ご相談下さい！



フレッシュな情報を発信中！

ホームページ オールしずおかベストコミュニティ

<http://www.all-shizuoka.or.jp/>

オールしずおかの活動がよくわかるサイトです。

Facebook ページ オールしずおかベストコミュニティ

<https://www.facebook.com/allshizuoka>

しずおか授産品 WEB カタログ

<http://s-seihin.jp/>

静岡県内の福祉事業所で作られている授産製品を閲覧できるサイトです。アイテムや地域などによる絞り込み機能や検索機能も充実。

特定非営利活動法人 オールしずおかベストコミュニティ

事務局

〒420-0031 静岡県静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」 4 階

TEL 054-251-3515 FAX 054-251-3516

Mail info@all-shizuoka.or.jp

公式 HP <http://www.all-shizuoka.or.jp>

